やっとかめ文化祭

歴史まち歩き

10 ここから城下町 橘

コース【地下鉄東別院 ▸▸ 大須観音境内】

旅人の胸騒ぎ、庶民の喜怒哀楽・・・ 尾張名古屋は大木戸から始まる

清洲越しの大移動では、武家や町人だけでなく、寺社も移されました。寺社は、武器の備蓄や要員の隠れ家として、広大な寺領を軍事的に活用するもくろみがありました。敵に攻め込まれやすい東と南の平野部に、宗派別に集団配置しました。この南の地域は、南寺町と総称。熱田に通じる街道を守る拠点としました。ここは信仰と同時に、見世物小屋が境内に建つなど大衆娯楽が栄えたエリアでもあります。大須観音をはじめとする寺社エリアに庶民が集い、名古屋で最も賑やかな繁華街となっていました。

① 大須観音

大須観音の正式名称は北野山真福寺宝生寺（きたのさんしんぷくじほうじょういん）です。もともとは現在の岐阜県羽島市にありましたが、徳川家康の命により慶長17年（1612年）に現在の地に移転しました。「古事記」をはじめとした貴重な古文書の蔵書が多いことでも有名です。

② 本願寺名古屋別院（西別院）

室町時代に伊勢国桑名郡長島杉江（現三重県桑名市長島町）に創立された「願証寺」に起源を持ちます。尾張藩初代藩主義直の時代、名古屋城築城に合わせて現在の門前町に移転し、「名古屋御坊」として親しまれるようになりました。
明治9年（1876年）「本願寺名古屋別院」と改称し、現在は中京都市圏での、浄土真宗本願寺派の中心道場となっています。
また、この地は明治7年（1874年）には現在の名古屋大学医学部の前身である医学講習所が設置され、医学研究の先駆をなした場所でもあります。
江戸時代、名古屋に滞在中の葛飾比斎が120畳の大達磨絵を揮毫したことでも有名です。

③ 仏壇の町

名古屋仏壇の始まりは、1600年代半ば以降だといわれています。東西両別院に挟まれた橘町、東橘町、門前町一帯にも仏壇業者は次第に増加していきます。仏具の製造は下級武士の内職として発達しましたが、名古屋仏壇の製造の中核を担ったのは、転身・専門化した宮大工・寺大工であった職人でした。アーケード街は、仏壇仏具のお店が並び、ビルの看板もまた仏壇仏具であふれています。本町通りを離れ、町の中の通りには、仏壇に関係する職人たちの暮らしがあります。数珠屋、作務衣や法衣を扱う店や畳屋もあります。

④ 日置神社

永禄3年（1560年）5月、織田信長が桶狭間の戦いに出陣するとき、戦勝を祈願したと伝えられる由緒ある古社です。早朝に清洲城を出て日置神社に到り、戦勝祈願を行い、「敦盛」を舞ったといわれ、軍勢の集結を待って熱田神宮へ寄り、桶狭間に向かいました。信長は戦勝の奉賽として松樹千本を神域に植え「千本松日置八幡宮」と崇めたといいます。信長ゆかりの松は、明治29年（1896年）の松樹を最後に絶えました。

⑤ 切支丹千人塚（栄国寺）

慶長17年（1612年）幕府がキリシタン禁制を発令し、寛文4年（1664年）にはこの地で200人あまりのキリシタンが処刑されました。
尾張藩2代藩主光友は、寛文5年（1665年）刑場を土器野（かわらけの・現清須市新川町）へ移し、刑死者の菩提を弔うため、跡地に清涼庵を創建、貞享2年（1685年）、栄国寺と改められました。栄国寺には切支丹博物館（有料）が併設されており、平成9年（1997年）には、境内に「殉教者顕彰碑」が建てられ、尾張のキリシタンの殉教史が綴られています。

⑩ 真宗大谷派名古屋別院（東別院）

元禄3年（1690年）、一如（いちにょ）上人（東本願寺第16代）によって開かれた真宗大谷派の寺院。尾張藩2代藩主光友より、織田信秀の居城「古渡城」の跡地1万坪の寄進を受けて建てられ、「御坊さん」の名で呼び親しまれています。昭和20年（1945年）、名古屋空襲によってそのほとんどが消失しましたが、昭和37年（1962年）本堂が再建されました。

⑨ 古渡城跡

天文年間中頃、織田信秀は今川氏豊から奪った那古野城を嫡男織田信長（幼名・吉法師）に譲り、尾張国愛知郡（現名古屋市中区）に古渡城を築城しました。
信長は天文15年（1546年）、13歳の時古渡城で元服をしたと伝えられています。
その後織田信秀は末森城を築き、古渡城は廃城となりました。

⑧ 名古屋芝居濫觴址

芝居公許地としては橘町が最も古く、二代藩主光友の治世に設置され、一旦途絶えましたが宗春の時代に復活して東西の名優が来演したということです。

⑦ 穴門残滓

町の人々は、この門を東別院出入りする門として利用していたそうです。また、ここから本町通りまでの道は「穴門筋」と呼ばれていました。

⑥ おためし場腑分けの跡（橘公園）

現在の橘公園のあたりは、旧称新屋敷といい、藩士が新刀の試し切りをした場所でした。また、嘉永7年（1854年）の冬、名古屋で最初の人体解剖（腑分け）が行われた場所でもあります。60余名が参観したと伝えられていて、杉田玄白らが江戸小塚原で初めて腑分けを行なってから83年後のことでした。

〈注意事項〉この地図は「歴史まち歩き」の資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴でご参加ください。車などに十分注意し、各自で責任をもって行動してください。住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。●お問い合わせ：（公財）名古屋観光コンベンションビューロー　TEL 052-202-1145（この情報は平成25年11月現在のものです。）